

外部専門家・自立活動連携相談と自立活動全体研修について



自立活動係では、職員の専門性や指導力向上のために、外部専門家の先生をお呼びしております。今年度は、4名の外部専門家の先生が以下の回数を来校し、連携・相談を行いました。

- 理学療法士 4回来校/年間
- 作業療法士 4回来校/年間
- 作業療法士（心理面）3回来校/年間
- 言語聴覚士 3回来校/年間



※作業療法士の先生には、心理面においてもカバーしていただける研修を行なっております。

外部専門家の先生方とは、自立活動の指導を充実させるために、困難さの背景要因を探る視点で連携・相談を行っており、直接的な指導の改善を図るための話し合いなども行っております。

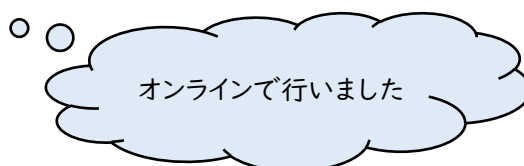
今回は、自立活動係が主催した研修会を2点ご報告させていただきます。

1点目は、作業療法士の先生との自立活動連携相談の報告です。目と手の協応動作に困難さがあった児童が、専門領域の視点で見えていただくと、体の協調運動にも苦手さがあったことが分かり、日常の場面で取り組める課題を一緒に考えていただきました。（写真は相談時の様子です）



2点目は、自立活動全体研修として、来校する言語聴覚士の先生より、「構音障害のある児童・生徒の理解と支援」の演題でご講演いただきました。

コミュニケーションといっても、一括りにはいきませんが、今回の研修では本校の児童生徒のコミュニケーション力を高めるために日常で見られる困難さの背景を掘り下げ、構音障害として表面に現れる原因や種類についておさらいした後、専門領域の視点ではどのように評価していくか、具体的な児童生徒の実態から支援に繋げるヒントをいただきました。その中でも、「発音が苦手な児童生徒のここを見て!」という視点を、日常生活の口腔に関する動作や、発音から具体的に捉えるポイントを伺いました。



今後も、私たち教育分野の職員と、専門分野の先生方と協働しながら児童生徒の適切な支援にあたっていきます。